



小原小路の続きはここから! 裏返して、真ん中で折って見てスィ〜!



新潟の小路めぐり 15

15 榎谷小路(まさやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に榎屋四郎右衛門の屋敷があったので、この名になったと思われる。上大川前通と西堀の間の小路であったが、明治末に拡幅、延長された。現在は延長された道も榎谷小路と呼ばれている。明治の町名改正では、横三番町通と改められた。

新新潟市道路元標のある本町の交差点は、日本一多くの国道が集まっている場所です! このわしも榎谷小路にのりだが見つけることはできるかな。



住宅地の隣にビル、その谷間に現れる蔵とNEXT21。古いものと新しいものが交錯しているのが面白いスィ〜!



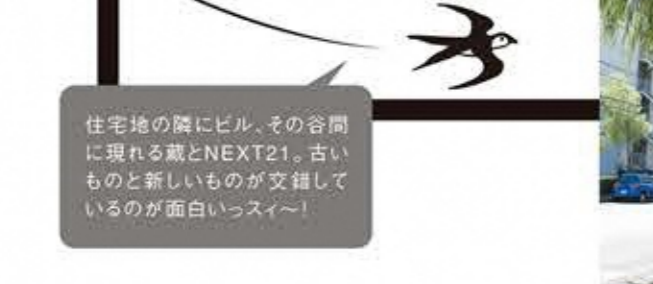
●新潟のメインストリート榎谷小路は、江戸時代には道幅は約6mの「小路」でした。その後、明治時代に萬代橋ができたときに拡幅をされ、さらに昭和の大拡幅で今のような大通りになりました。生活空間としての小路から、交通の要所としての道路へ。ダイナミックに変化していく町を、リアルに感じることができるエリアです。



変わる街、変わらない町 榎谷小路〜広小路



16 八間小路(はちけんこうじ):江戸時代からの小路名であり、この小路には八軒の家があったことからこの呼称になったという。間と軒は同音であることから八間小路と記され、それが踏襲されて固着化されていったらしい。



そしてこちらは柳並木だ、気持ちいいスィ〜!



東堀側の突き当たりに見えるのは、老舗料亭鍋茶屋。古町通側が正面だけど、こっちは僕がいるマロンよ。



18 吹屋小路(ふきやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に吹屋理兵衛の屋敷があったので、吹屋小路と呼ばれるようになったと思われる。大正より昭和にかけて少女雑誌や絵本の挿絵画家として人気のあった藤谷虹児は、幼少期から青年期まで新潟の町で暮らした。この小路名にちなんでペンネームをつけたのではないかとされている。

イタリア軒脇にある藤谷虹児の花嫁人形の歌碑



17 新堀(しんぼり):初めは道心小路という小路であったが、ここに新堀が堀割られ、その両側が小路になった。新堀は明治の町名改正で三番堀と改められたが、堀は戦後になって埋立てられ広い小路になった。



19 坂内小路(ばんないこうじ):江戸時代、本町通のこの小路の上手に坂内利兵衛の屋敷、下手に利兵衛の外屋敷があったので、坂内小路と呼ばれたと思われる。明治の町名改正では、横四番町通に改められた。



20 六軒小路(ろっけんこうじ):江戸時代からの小路名であり、古町の東側から大川前までの長い通し小路であったが、固有名が付けられたころ大きな家が多く、家数が六軒であったことからこの名がついたものと思われる。六間小路と記された絵図もある。

本町通り番町六軒小路脇 竹内式部出生地の碑

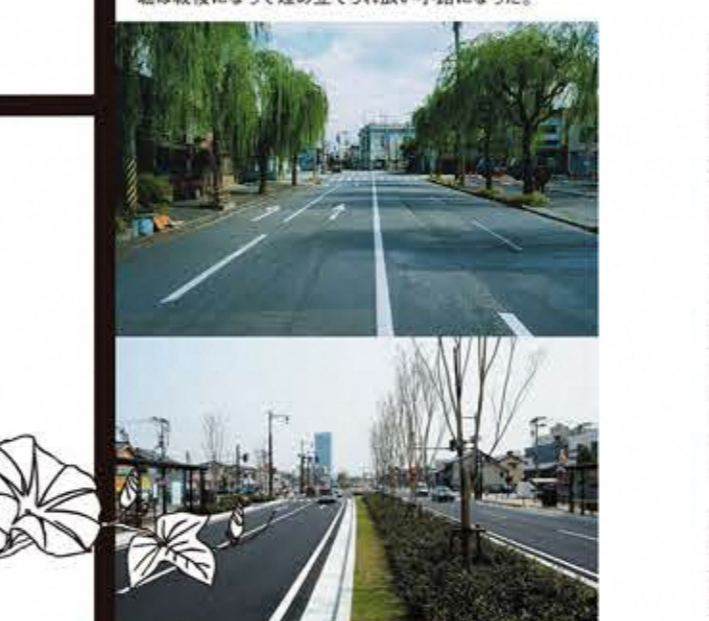


21 広小路(ひろこうじ):広小路堀という堀の両側に付けられた小路であった。広小路堀は明治の町名改正で四番堀と改められたが、堀は戦後になって埋立てられ広い小路になった。



22 能登屋小路(のとやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に能登屋新蔵の屋敷があったので、能登屋小路と呼ばれたと思われる。

明治維新の精神的指導者 吉田松陰は、嘉永5年(1852)新潟の医家、風間小路の中川立庵宅に逗留し、日和山にも上りました。松陰が良庵に送った詩の碑が白山神社の拝殿の裏にあります。



24 風間小路(かざまこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。直線ではなく、東堀と古町通で食い違っていた。東堀と西堀の間は現在、拡幅され直線になっている。明治の町名改正では、横五番町通に改められた。



25 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。

26 御祭堀(ごさいぼり):江戸時代、御祭堀という堀の両側に付けられた小路であり、古い絵図では「さい小路」「御祭堀」と記されることもあった。堀は明治の町名改正で五番堀とされたが、戦後になって埋立てられ道路となった。今は「五葉堀」と記されることが多い。



25 風間小路(かざまこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



26 御祭堀(ごさいぼり):江戸時代、御祭堀という堀の両側に付けられた小路であり、古い絵図では「さい小路」「御祭堀」と記されることもあった。堀は明治の町名改正で五番堀とされたが、戦後になって埋立てられ道路となった。今は「五葉堀」と記されることが多い。



27 能登屋小路(のとやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に能登屋新蔵の屋敷があったので、能登屋小路と呼ばれたと思われる。



28 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



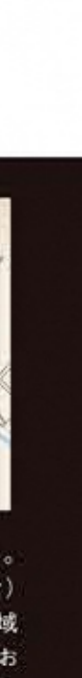
29 能登屋小路(のとやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に能登屋新蔵の屋敷があったので、能登屋小路と呼ばれたと思われる。



30 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



31 能登屋小路(のとやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に能登屋新蔵の屋敷があったので、能登屋小路と呼ばれたと思われる。



32 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



●昔の新潟町は、地域ごとに職業が決まられていました。風間小路から片桐小路、御祭堀のあたりは「肴(さかな)町」または「助買(すけご=魚屋)町」と呼ばれる地域で、現在の本町通11番町の西側には「大助買(おおすけご)」と呼ばれる魚問屋が並んでいたといえます。当時新潟町で魚の店売りができるのはここだけでした。片桐小路案内板のイラストに描かれているのは、以前蒲鉾屋さんだった名残の煙突。「すけごまちからつづくみち」の名残でもあるのですね。